

## 地域を「奏でる人」に 奏海の杜で学習支援事業

「お金って大事!」をテーマにした学習支援事業(奏海の杜主催)が7月20日、登米町の交ゆう館かなみで開かれました。

交ゆう館かなみは、学びと交流を目的とした新拠点今年6月に開所。健全で安全な社会の実現と障がい者福祉の支援活動拡充を目指して、毎月1回、さまざまなテーマで学習支援をしています。当日は、施設職員などが、金銭感覚をクイズ方式でチェックしながら、お金から連想する言葉やお金のイメージを紙に書き、参加者は互いの考えを共有。話し合いを通じて交流を深めました。



奏海の杜の代表である太齋京子さんは、興味のある人たちと一緒に楽しみたいと話します。

## 動画で市の魅力PR 4市町の移住情報を配信

登米市、栗原市、岩手県一関市、平泉町の4市町連携移住イベント「宮城・岩手横断オンラインライブ!」は7月3日、それぞれの市町を中継先の会場として開かれ、暮らしに関する情報や地元ならではのグルメレポートなど、4市町の魅力を一度に届ける番組をYouTubeで配信しました。

登米市は、長沼ボート場クラブハウスから長沼フートピア公園の風車を背景に中継。イベントでは、4市町別にクイズを出題し、正解者には抽選で地元の特産品「伊豆沼農産の3種のウイナーとミートケーキ・リングフランク詰合せ」をプレゼントしました。



市観光シティプロモーション課の職員と地域おこし協力隊員が、ライブ配信で登米市の魅力をPRしました。

## 一面ハスの極楽景色 伊豆沼・内沼ではすまつり

「伊豆沼・内沼はすまつり」が、7月25日から8月22日まで開催されています。

伊豆沼は、深さが1.4mと遠浅な地形。日本一といわれるハスの群生を含め自然資源の宝庫の沼で、最もハスが咲く早朝は特に素晴らしい風景が楽しめます。小型遊覧船を運転する高山勝之船長は、「今年はこれまでにないくらいハスの状態が良く、花がとてもきれいに咲き、最高の景色の年。お客さんもたくさん来てくれてうれしい」と笑顔で話しました。乗船中は記念撮影の時間もあり、一面に咲いたハスの花に囲まれて優雅な時間を堪能できます。



小型遊覧船は全部で5艇。1回の周遊時間は約25~30分で、ゆっくりとハスの鑑賞を楽しむことができます。

## モネの放送機に交流 観光ガイドが合同勉強会

「『みやぎの明治村』とよま観光案内人倶楽部と気仙沼コンベンション協会観光ガイド合同勉強会」は7月4日、市内各地の観光施設などで開かれ、登米市と気仙沼市の観光ガイド15人が参加しました。

勉強会は、「おかえりモネ」の放送を機に両市のガイドが交流することで、連携しながら両地域の観光の活性化を図る取り組みとして実施。市内の観光施設などを見学した後、遠山之里で意見交換をしました。ガイドたちは「放送後のガイド方法の変化は」、「放送前と比べどのような観光客が増えたか」など、どのようなガイドの仕方が求められているのかを確認しました。



登米市から7人、気仙沼市から8人のガイドが参加。森林セラビロードなど市内の案内をしながら交流を深めました。

## 鱒淵小を教育に活用 仙台育英が分校舎を開設

登米市と仙台育英学園(加藤雄彦理事長)による「協定締結式」は7月29日、市役所迫庁舎で開かれ、同学園東和蛸雪校舎開設に関する協定を結びました。

協定により、旧鱒淵小校舎を同学園の東和蛸雪校舎として開設し、生徒と教職員の研修や留学生の介護士育成のための授業、卒業生の功績物の集約展示などに活用されます。加藤理事長は「2000年に本校の登米学習センターを開設するなど、長く関わりのある登米市と新たな協定を結ぶことに感謝している。通信環境など施設設備を整え、ICT交流などでも活用していきたい」と今後の施設運営について述べました。



加藤理事長(右)と熊谷市長。熊谷市長は「未来に羽ばたく人材を育成できる校舎になることを願っている」と話しました。

## コロナ禍の農政学ぶ 認定農業者が意見交換会

「衆議院議員小野寺五典氏との農業政策に関する意見交換会」(登米市認定農業者連絡協議会主催、高橋幸三会長)は7月17日、若鯨はさま館で開かれ、市内認定農業者34人が参加しました。

意見交換会は、農業経営の維持、発展のため、農政に関する情報を交換し、経営に生かすことが目的。出席者からの飼料用米の不足や販売促進の環境づくりなどの質疑に、国会議員の小野寺五典氏が全国の事例を交えながら最新の農業政策について説明しました。高橋会長は「生産者を考えた政策活動をしている小野寺氏との意見交換を農業経営につなげたい」と話しました。



小野寺氏は「コロナ禍における国の農業政策」について講演。出席者たちは自身の農業経営に関し、活発な質疑をしていました。